

■ 概況

10/1~10/7のNYMEX・WTI先物市場は、37.05~40.67ドルの範囲で推移した。

10月8日は、メキシコ湾岸に接近中のハリケーン「デルタ」を警戒して、沖合施設の稼働停止等供給懸念が高まるとともに、サウジが来年初からのOPECプラスの減産緩和の中止を検討中との報道があり、需給の引き締まりが意識され反発した。11月限終値は前日比1.24ドル高の41.19ドル。

週末9日は、ノルウェー沖合施設のストライキが労使交渉の妥結で解除されたことから、反落した。また、OPECが世界石油需要は2030年代後半にピークを迎えるとの長期見通しを発表したことも相場の重しとなった。なお、米国稼働石油掘削機は前週末比4基増の193基で3週連続の増加。11月限の終値は前日比0.59ドル安の40.60ドル。

週明け12日は、ハリケーン「デルタ」が湾岸を通過、沖合施設・湾岸製油所とも操業を再開、また、リビア国営石油会社は、同国シャララ油田の不可抗力条項を解除、出荷再開の姿勢を示したことで、供給過剰感が意識され、大幅続落した。

11月限終値は前週末比1.17ドル安の39.43ドル。

13日は、原油輸入の伸びなど中国の貿易統計が堅調で、中国の順調な経済回復を裏付けたとして、反発した。ただ、国際エネルギー機関(IEA)の長期見通しがエネルギー需要の回復は2025年までずれ込むと報告したことが、上値を重くした。11月限の終値は前日比0.77ドル高の40.20ドル。

14日は、翌日発表予定の米国エネルギー情報局(EIA)週報で原油在庫の取り崩しが予想され、また、OPECプラスが現行の減産規模が維持されると観測されるなどで、需給の締まりが好感され続伸した。11月限の終値は前日比0.84ドル

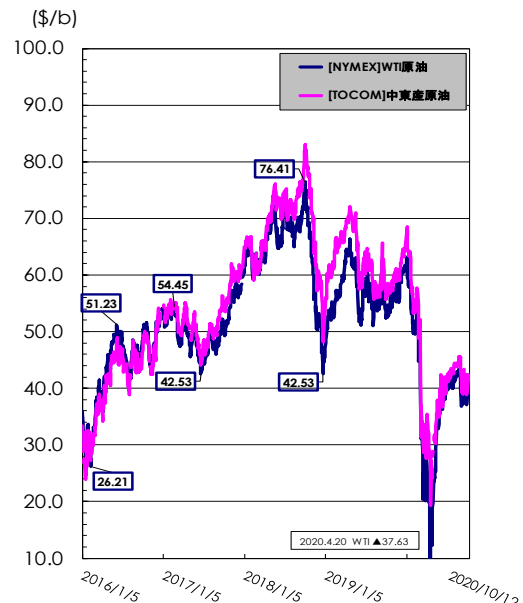
高の41.04ドル。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(12月渡し)は10月1日~7日の間38.70~42.50ドルの範囲で推移した。10月8日41.30ドル、9日42.30ドル、12日41.60ドル、13日41.20ドル、14日41.20ドルと推移した。

為替は10月1日~7日の間105.55~105.68円の範囲で推移した。10月8日106.07円、9日105.98円、12日105.66円、13日105.36円、14日105.43円で推移した。

そのような中で、10月12日時点の小売価格は、ガソリンが前週比0.5円の値下がり、軽油も同0.4円の値下がり、灯油は5円の値下がり(18%ベース)だった。ガソリンは4週連続の値下がり、軽油も4週連続の値下がり、灯油は2週ぶりの値下がりだった。この週(10月第2週)の原油コストは値上がりし、次週の元売の卸価格はガソリン・軽油・灯油ともに前週比0.5円の値上げとなった。

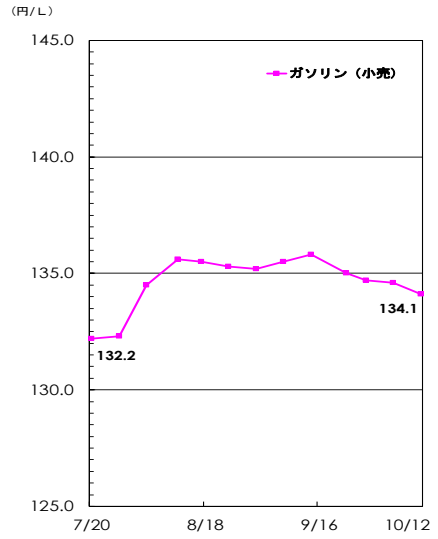
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	10/4 ~ 10/10	2,486 ▼ -9%	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	63.5 ▼ -2.4	▼ -
	原油在庫量 (千kl)	10/10	13,131 ▼ -246	▲ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	10/12	41.75 ▲ 1.86	▼ -15.9
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	10/12	39.43 ▲ 0.21	▼ -14.2
	原油CIF単価 (\$/bbl)	9月中旬	46.51 ▲ 0.77	▼ -17.79
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	31,006 ▲ 507	▼ -12,124
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	106.00 ▲ 0.01	▲ 0.64
	外国為替TTSレート (¥/\$)	10/12	106.66 ▼ -0.07	▲ 2.76



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	10/4 ~ 10/10	835 ▼ -8 ▲ -		
	輸入	"	n.a. n.a.	n.a.	
	出荷	"	729 ▼ -71 ▼ -		
	輸出	"	53 ▲ 53 ▲ -		
	在庫	10/10	1,887 ▲ 53 ▲ -		
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	10/6 ~ 10/12	42.6 ▼ -0.4 ▼ -13.3		
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	10/6 ~ 10/12	39.5 ▲ 0.6 ▼ -14.9	
		(TOCOM/中部)	10/12	41.1 ▲ 1.1 ▼ -14.7	
	小売 [週動向] (資工庁公表)	10/12	134.1 ▼ -0.5 ▼ -13.2		

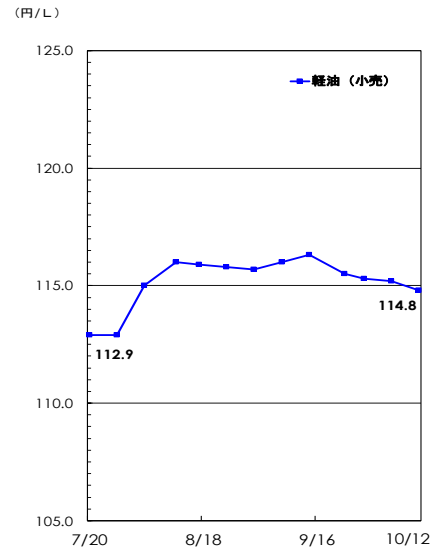
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

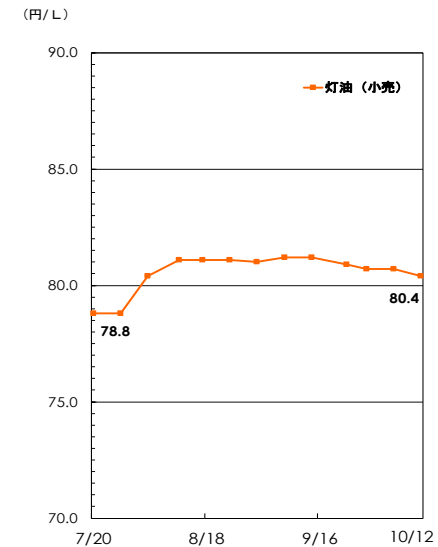
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	10/4 ~ 10/10	628 ▼ -73 ▼ -		
	輸入	"	n.a. n.a.	n.a.	
	出荷	"	540 ▼ -97 ▼ -		
	輸出	"	10 ▼ -37 ▼ -		
	在庫	10/10	1,579 ▲ 78 ▲ -		
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	10/6 ~ 10/12	45.2 ▼ -0.5 ▼ -14.0		
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	10/6 ~ 10/12	47.5 ▲ 0.6 ▼ -13.9	
		(TOCOM/中部)	10/12	- - -	
	小売 [週動向] (資工庁公表)	10/12	114.8 ▼ -0.4 ▼ -13.0		

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	10/4 ~ 10/10	199 ▼ -31 ▼ -		
	輸入	"	n.a. n.a.	n.a.	
	出荷	"	172 ▲ 90 ▼ -		
	輸出	"	25 → 0 ▲ -		
	在庫	10/10	2,973 ▲ 2 ▲ -		
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	10/6 ~ 10/12	45.0 ▼ -0.5 ▼ -13.6		
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	10/6 ~ 10/12	42.6 ▲ 0.6 ▼ -13.9	
		(TOCOM/中部)	10/12	44.0 ▲ 2.0 ▼ -14.2	
	小売 [週動向] (資工庁公表)	10/12	80.4 ▼ -0.3 ▼ -11.7		



■ 関連情報

1 海外/原油

10月14日のNYMEXのWTI先物原油は続伸した。一日遅れで明日発表予定の米国エネルギー情報局(EIA)の在庫週報で原油在庫の前週比減少が予想されること、前日のIEA月報でも先進国原油在庫は確実に減少していることから、石油需給の締まりが意識、また、サウジとロシア首脳が13日の電話協議で協調減産の継続を話し合うことで合意したとの外電報道があり、現行の減産規模が1月以降も維持されとの観測が、その要因となった。ただ、新型コロナの感染再拡大の懸念は大きく、上値は重かった。11月限の終値は前日比0.84ドル高の41.04ドル、12月限の終値は同0.85ドル高の41.34ドル。

EIAによると、10月12日時点のガソリンの小売価格は、前週比0.5セント値下がりの1ガロン2.167ドル(61.0円/㍗)、ディーゼルは同0.8セント値上がりの2.395ドル(67.4円/㍗)となった。ガソリンは3週ぶりの値下がり、ディーゼルは6週ぶりの値上がりだった。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2020年10月4日～10月10日に休止したトッパー能力は85.5万バレル/日で、前週に対して17.6万バレル/日増加した(全処理能力は351.9万バレル/日)。

原油処理量は248.6万klと、前週に比べ9.6万kl減少。前年に対しては56.7万klの減少。トッパー稼働率は63.5%と前週に対して2.4ポイントの減少、前年に対しては14.5ポイントの減少となった。

生産は前週に比べてジェットが増産、その他の油種で減産となった。ガソリン/0.9%減、ジェット/33.9%増、灯油/13.6%減、軽油/10.4%減、A重油/12.5%減、C重油/35.6%減。今週のC重油の輸入は2.0万kl(前週比1.5万kl増)。軽油の輸出は1.0万kl(前週比3.7万kl減)。

出荷(輸入分を除く)は前週比で灯油が増加となり、その他の油種で減少となった。前年比ではA重油、C重油が増加となり、その他の油種で減少となった。ガソリンの出荷は72.9万kl(対前週8.8%減)と2週連続で減少した。ジェット5.5万kl(対前週16.0%減)、灯油17.2万kl(対前週109.9%増)、軽油54.0万kl(対前週15.2%減)、A重油16.3万kl(対前週8.9%減)、C重油11.9万kl(対前週34.3%減)。

(単位:千KL)

	今週 (10/4 ~ 10/10)	前週 (9/27 ~ 10/3)	前週比
ガソリン	729	800	▼ -71 (-9%)
ジェット燃料	55	65	▼ -10 (-15%)
灯油	172	82	▲ 90 (110%)
軽油	540	637	▼ -97 (-15%)
A重油	163	179	▼ -16 (-9%)
C重油	119	181	▼ -62 (-34%)
合計	1,778	1,944	▼ -166 (-9%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

10月10日時点の在庫は、全油種で積み増しとなった。前年に対してはジェット、C重油が減少となり、その他の油種で増加となった。

ガソリンは188.7万kl、前週差5.3万kl増。前年に対しては35.1万kl多い。

灯油は297.3万kl、前週差0.2万kl増。前年に対しては34.3万kl多い。

軽油は157.9万kl、前週差7.8万kl増。前年に対しては20.2万kl多い。

A重油は74.5万kl、前週差1.8万kl増。前年に対しては3.5万kl多い。

C重油は181.4万kl、前週差1.2万kl増。前年に対しては10.3万kl少ない。

(単位:千KL)

	今週 (10/10)	前週 (10/3)	前週比
ガソリン	1,887	1,834	▲ 53 (3%)
ジェット燃料	843	824	▲ 19 (2%)
灯油	2,973	2,971	▲ 2 (0%)
軽油	1,579	1,501	▲ 78 (5%)
A重油	745	727	▲ 18 (2%)
C重油	1,814	1,802	▲ 12 (1%)
合計	9,841	9,659	▲ 182 (1.9%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

10月6日～12日の原油価格は前週比で値上がりし、為替レートはわずかに円安で、円建ての原油コストは値上がりしたと見られる。

次週の大手元売卸価格は、ガソリン・灯油・軽油ともに、全社、0.5円の値上がりとなった。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

10月6日～12日の製品スポット市況は、9月29日～10月5日平均と比べ、先物各油種の値上がり、海上灯油の横ばいを除いて、他の取引で値下がりした。

直近(10/6～10/12)の陸上スポット価格平均値(千葉・川崎・中京・阪神の4地区の陸上ラック価格)は、前週(9/29～10/5)比で、ガソリンは0.4円の値下がり、灯油は横0.5円の値下がり、軽油は0.5円の値下がりだった。直近(10/6～10/12)において、ガソリンは96円台でわずかに値上がり、灯油は44～45円台でわずかに値下がり、軽油は45円台でわずかに値下がりして推移した。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、直近(10/6～10/12)に、前週比で、ガソリンは0.5円の値下がり、灯油は横ばい、軽油は0.2円の値下がりだった。海上スポット価格は、同期間(10/6～10/12)に、ガソリンは97～98円台で出入り後わずかに値下がり、灯油は43円台でわずかに値上がり、軽油は46～47円台で出入り後わずかに値上がりして推移した。

先物価格の平均は、前週比で、ガソリンは0.6円の値上がり、灯油も0.6円の値上がり、軽油も0.6円の値上がりだった。先物価格は、同期間(10/6～10/12)に、ガソリン93円台でわずかに値下がり、灯油42円台でわずかに値上がり、軽油47円台で出入り後値下がりして推移した。

(RIM) (単位: 円/%)

陸上ローリー 4地区平均]	今週 (10/6～10/12)	前週 (9/29～10/5)	前週比
	レギュラー	42.6	43.0
灯油	45.0	45.5	▼ -0.5
軽油	45.2	45.7	▼ -0.5

(TOCOM) (単位: 円/%)

先物価格 [平均]	今週 (10/6～10/12)	前週 (9/29～10/5)	前週比
	レギュラー	39.5	38.9
灯油	42.6	42.0	▲ 0.6
軽油	47.5	46.9	▲ 0.6

※上記価格は税抜き価格

参考値 (10/6～10/12実績値) (単位: 円/%)

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▼ -0.4	▲ 0.6	▲ 0.1
灯油	▼ -0.5	▲ 0.6	→ 0.0
軽油	▼ -0.5	▲ 0.6	▲ 0.1
A重油	▼ -0.5		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

10月12日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.5円安の134.1円、軽油は同0.4円安の114.8円、灯油は18%ベースで同5円安の1,448円(1%ベースでは80.4円で同0.3円安)。ガソリンは4週連続の値下がり、軽油も4週連続の値下がり、灯油は2週ぶりの値下がりだった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりは4府県、横ばいは6県、値下がりが37都道府県となった。全国最安値は徳島県の127.0円(前週比横ばい)、その次に安いのが宮城県の127.3円(同0.3円安)、最高値は長崎県(同0.8円安)と大分県(同横ばい)の143.7円。最も値上がりしたのは、同0.7円高の沖縄県(142.0円)、横ばいは大分県等6県、最も値下

がりしたのは、同1.9円安の山口県(129.3円)と群馬県(133.8円)だった。

今週(10月6日～12日)は、原油価格は値上がりし、為替レートわずかに円安で、円建ての原油コストは値上がりしたと見られる。次週(10月15日～21日)適用の元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、全社0.5円の値上げとなった。次回調査時(10月19日)のガソリンの小売価格は、小幅な値上がりが予想される。

(単位: 円/%)

(資工庁公表) [週動向]	今週 (10/12)	前週 (10/5)	前週比	直近高値
レギュラー	134.1	134.6	▼ -0.5	08/8/4 185.1
灯油	80.4	80.7	▼ -0.3	08/8/11 132.1
軽油	114.8	115.2	▼ -0.4	08/8/4 167.4

小売価格

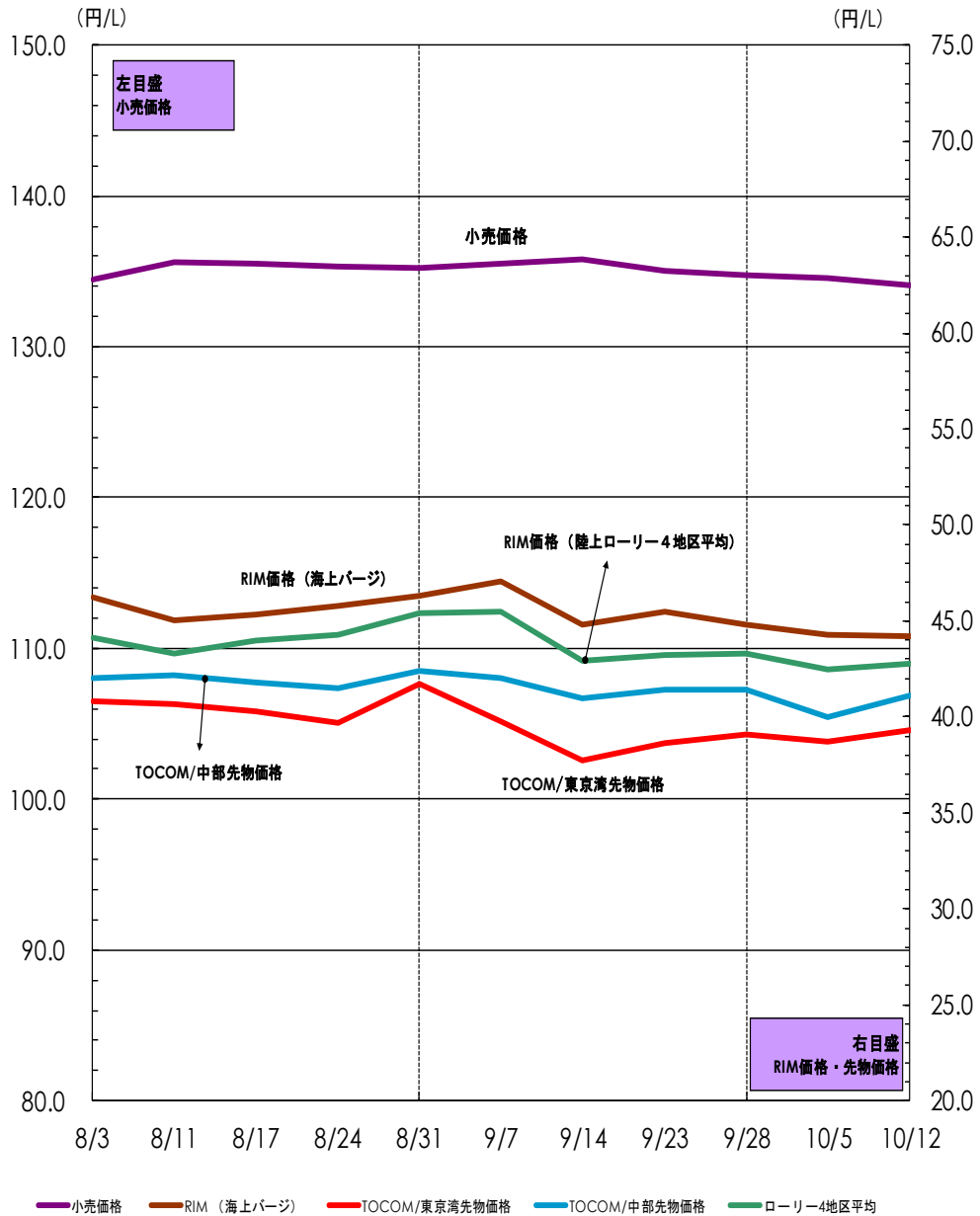
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2020/8/3 ~ 2020/10/12)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2020第16号)の公表は、10/23(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(令和2年3月末現在)は、8月26日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM(Telegraphic Transfer Middle rate : 中値)を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用(いわゆる4RIM価格とは異なる)。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。原則として、毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁HPに掲載)。